

提出締切：2009年4月27日(月)

2008年度 研究の国際化推進プログラム「研究成果の国際的発信強化」 報告書

研究代表者	所属機関・職名： 情報理工学部情報コミュニケーション学科教授 氏名： 川越恭二
研究テーマ	知的ユビキタス環境のためのプレゼンス情報管理機構の研究開発

<b>I. 「成果発信」の目的・意義の概要</b> 今回の国際的研究成果発信の目的・狙い、意義・必要性について、簡潔、明瞭に記入してください。
<p>現在、我々はユビキタス環境における利用者の状況を示すプレゼンス情報を管理する仕組みの研究開発を実施している。</p> <p>ユビキタス情報の管理機構は、いつでもどこでもサービスが受けられるユビキタス環境では利用者の現在の状況の理解なしには、適切なサービスの提供が困難であることから非常に重要なものとなっている。こプレゼンス情報管理機構において、もっとも重要な課題は、1)現在のプレゼンス情報の推定、2)プレゼンス情報を用いた最適なコミュニケーション手段の推定、3)個人情報であるプレゼンス情報へのアクセス制御の実現、の3点である。これに関して新たな方法を考案しその有効性をすでに一部明らかにしている。</p> <p>このうち、プレゼンス情報管理に関しては日本国内での研究よりもむしろ欧米および韓国での研究開発が活発である。これまでの研究成果を国内ではなく海外をターゲットとして積極的に公表することで、プレゼンス情報管理技術に関する研究の中核拠点のひとつとして世界的な認知を期待できる。</p> <p>すなわち、欧米と韓国で数多く開催されているユビキタス環境におけるプレゼンス情報サービスに関連した国際会議で積極的に成果の発信を行うことで、研究成果をよりタイムリーに世界に発信し、そのことで世界水準の成果をいち早く入手することが可能となり、この分野での研究活動のいっそうの活性化を行える。</p>
<b>II. 「成果発信」の成果と今後の展開計画の概要</b> 今回の国際的研究成果発信で得られた成果、目標達成度、今後の展開計画について、ポイントを絞り具体的、簡潔に記入してください。
<p>以下の2件の国際会議での発表を実施した。</p> <p>1) Symposium on Ubiquitous Multimedia Services UMS-2008, April 24-26, Busan, Korea にて Seint Seint Aye and Kyoji Kawagoe: Supporting Appropriate Communication Media Selection In Ubiquitous Environment (査読有)</p> <p>2) International Conference on e-Society 2008, April 9-11, Algarve, Portugal にて Seint Seint Aye and Kyoji Kawagoe, : Selecting the Most Appropriate Media Among Many Communication Medium Available in E-Society (査読有)</p> <p>なお、申請予算が減額されたため下記論文の投稿を断念し、国内会議で以下の発表を行った。</p> <p>・(予定) Kasai Keisuke, Yu Suzuki and Kyoji Kawagoe, 論文名: PBAC: Presence oriented Role/Situation Based Access Control in Ubiquitous Environment(仮)(PBAC: ユビキタス環境でのプレゼンス指向の役割と状況ベースのアクセス制御)</p> <p>・(発表済み) 笠井敬介, 鈴木優, 川越恭二, 状況変化を考慮した利用者個人情報のアクセス制御モデル</p> <p>2009年 暗号と情報セキュリティシンポジウム(SCIS2009), 電子情報通信学会情報セキュリティ研究専門委員会(ISEC研), CD-ROM 論文集 3F4-2, pp.1-6, Jan., 2009</p>

本ページはホームページに公開いたします。1ページに収めてください。